

平成 28 年 3 月 29 日 作成 井上峻介

平成 29 年 3 月 31 日 修正 井上峻介

ビーム物理領域インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会世話人会) 議事録

日時：平成 28 年 3 月 20 日（日） 17:30 ～

会場：東北学院大学 泉キャンパス 2号館 222 (AF 会場)

出席者（順不同・敬称略）

鷺尾、林崎、川瀬、境、栗木、神門、今、中新、佐々木、山本、森、中村、上坂、羽島、
保坂、全、平、原田、加藤、柏木、坂上、菅、井上

司会：坂上

書記：井上、菅

配布資料：

2016S-1: 前回議事録

議事内容：

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - 2-1 日本物理学会ビーム物理領域関連
 - 2-2 ビーム物理研究会関連
 - 2-3 日本加速器学会関連
3. その他

1. 前回議事録確認

平成 27 年 8 月 7 日に開催されたビーム物理研究会世話人会（第 12 回日本加速器学会年会、プラザ萬象、福井県敦賀市）の議事録（配布資料：2016S-1）について内容の確認が行われた。誤字の指摘が 2 カ所あり、修正された議事録の承認が確認された。

2. 報告・審議事項

2-1 日本物理学会ビーム物理領域関連

一般講演について

過去 10 年間における春の物理学会での一般講演数の推移、今 2016 年大会における他領域との講演数の比較、所属機関別内訳、2015 年大会・2016 年大会における他領域との合同セッション発表件数の内訳が報告された。一般講演件数には合同セッションを含む講演件数がカウントされる。前回 2015 年大会では 133 件（合同を含まない場合は 72 件）であったのに対し、今 2016 年大会では 127 件（合同を含まない場合は 80 件）であったことが報告された。そのうちシンポジウム 4 件での講演が 29 講演あった。合同セッションを含まない場合の発表は増加した。講演数は各領域中「物理と社会」を除きワースト 2 であった。領域代表佐々木氏から各機関代表宛に発表数増の依頼メールを送付していただいた。領域代表からの講演依頼メールは引き続き行うことが推奨された。また、各機関においてもビーム物理領域の活性化を目的とし、講演依頼を行うことが推奨された。

他領域との合同セッションについて

前回大会では 46 件（ビーム物理の寄与：24 件）、今回は 62 件（ビーム物理の寄与：31 件）であった。6 つの合同セッションを企画し、ビーム物理主催で SuperKEKB・BelleII・ILC、J-PARC と原子核素粒子実験、レーザー・プラズマ加速、ミューオン・中性子・陽電子の 4 セッションを開催した。前回大会では J-PARC と原子核素粒子実験の申し込み件数がなく非開催であったが、今回大会では 10 件の応募があり開催された。領域 2 との合同分（レーザー・プラズマ加速、イオントラップ・非中性プラズマ・レーザー冷却）は年度ごとに主催を交代していて、今回はビーム物理領域主催で開催された。

招待・企画講演について

前回大会では、1 件の企画講演を実施、今大会でも 1 件の企画講演（素粒子実験領域主催、ビーム物理共催）を実施した（以上に若手奨励賞受賞記念講演を含まず）

シンポジウム講演について

前回では主催 1 件、共催 1 件を実施、今大会では主催 1 件、共催 3 件を実施した。

来春のシンポジウム案について

次回の加速器学会の世話人会で議論するので、それまでにご提案ください。

若手奨励賞受賞記念講演について

今大会の受賞者：1名

東京農工大学の永田祐吾氏が受賞したことが報告された。

次回の若手奨励賞の応募締切日について、受賞者選定のための議論を円滑に行うため、今回の奨励賞の締切日である8月31日より前倒しし、7月31日とすることが提案され、了承された。その際、応募期間の短期間化を防ぐため、4月以降速やかに募集の告知を行うことが確認された。博士論文も審査対象になるので積極的な応募を。

来年度大会までのスケジュールについて

次回の秋季大会のシンポジウム等申し込み締め切りについてリマインドされた。素核宇分野は宮崎大学木花キャンパスで、物性分野は金沢大学角間キャンパスで開催される。秋季大会ではビーム物理領域主催のセッションは開催されない。

次回年次大会は大阪大学豊中キャンパスで2017年3月17日～20日に開催される予定。

執行部と事務局の確認

執行部と事務局の確認が行われた。執行部は2年の任期のうち2016年度が最終年度となっている。事務局に関して、領域代表である佐々木氏のご退職に伴い、副代表の羽島氏のオフィスへと変更することが提案され、了承された。2016年度より、羽島氏所属機関の名称が変更となるため、年度初めに変更手続きを行うことが確認された。

●ビーム物理研究会

会長：佐々木茂美（広大）

副会長：羽島良一（JAEA）、上坂充（東大）

●日本物理学会ビーム物理領域

会長：佐々木茂美（広大）

副会長：羽島良一（JAEA）

●事務局（下記より変更の予定）

国立大学法人広島大学放射光科学研究センター 放射光物理研究室

次期領域運営委員について

2016年10月から2017年9月の任期を担当する次期運営委員として、日本原子力研究開発機構の今亮（こんあきら）氏が推薦され、承認された。

2-2 ビーム物理研究会関連

ビーム物理研究会・若手の会について

上坂氏より

東大主催、JAEA、KEK 共催で東海村いばらき量子ビーム研究センターにおいて、2015年11月26, 27, 28日に開催され、参加総数38名（一般17名、学生21名）で、成功裏に終了したことが報告された。

●ビーム物理研究会について

講演数は17件であった（内訳：若手9件、一般講演7件、招待講演1件）

今回の開催では、口頭発表の機会を若手研究者へより多く与えることを目的とし、「若手セッション」が新設された。また、研究の発展を支援すべく、優秀な発表者には「若手発表賞」を授与することとし、今回は平義隆氏（産総研）と大谷将士氏（KEK）の2名が「若手発表賞」を受賞した。

●若手の会について

学生中心の研究紹介・ポスター発表が行われた。ポスター発表は12件であった。研究室紹介では研究内容紹介のみならず、フランクな雰囲気のものとの紹介が続き、親睦を深める良い機会でとなったことが報告された。

来年度の研究会・若手の会について

来年度の開催は主催 JASRI での開催を検討中ある旨が報告された。

2-3 日本加速器学会関連

第13回日本加速器学会年会のお知らせ

会期：2016年8月8日(月)～10日(水)

会場：幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市）

発表申込期間：2016年5月16日

参加申込期間：2016年7月22日

プロシーディングス提出締め切り：2016年8月1日

会期中ビーム物理研究会世話人会を開催する予定です。

3. その他

PTEP 特集号について

黒田氏より

PTEP で超伝導加速器関連の特集号を組みたいので、今後の協力をお願いする旨が告知された。詳細は今後のインフォーマルミーティングで議論を行う予定。

次回の総会・世話人会

世話人会：2016年8月8日～10日 幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催される第13回日本加速学会会期中に実施する予定。

総会：2017年3月17日～20日 大阪大学豊中キャンパス（大阪府豊中市）で開催される日本物理学会第72回年次大会（大阪大学）に実施予定。

ビーム物理領域のHPおよびMLに関して

佐々木氏、羽島氏より

物理学会より下記の提案を受けた

- 物理学会のHP内に領域のHPを作成すること
 - 物理学会の準備したMLにより領域のMLを運用すること
- 下記の理由により、現状断っているとの報告があった。
- ビーム物理の会員すべてが物理学会に所属しているわけではない
 - ビーム物理研究会で、既に独自にHPとMLを運営している

インフォーマルミーティングの開催日時について

毎年、ビーム物理領域インフォーマルミーティングの開催日時と同時刻に高エネルギー物理学研究者会議総会も行われており、出席者が分散してしまっているため、開催日を変更することはできないかとの提案があった。

ビーム物理領域のインフォーマルミーティングは、慣例として物理学会開催期間中、二日目の夕刻に開催している。次回からは変更の可能性も含めて検討する旨が確認された。

日本原子力学会 加速器ビーム科学部会について

林崎氏より

日本原子力学会 加速器ビーム科学部会の紹介（下記）と、今後の活発な交流を目標とした提案があった。

- 加速器ビーム科学部会の会員数はおよそ200人程度。
- 毎年春と秋の二回、部会セッションを開催しており、比較的工学よりではあるが、興味のある方の参加を募集している。また、2年に1回程度、日韓合同の勉強会を開催している。
- 加速器ビーム科学部会のMLがありイベント等があれば周知可能なので、林崎氏まで連絡を。

加速器学会の賞関連のアナウンス

羽島氏より

加速器学会の各賞の推薦締め切りが2016年3月末までなので、積極的な応募を。

以上